

なすびの花

傍観者効果

我が社の製造現場では、生産開始時に、最初の一個目の製品で、出来上がった製品の仕様が正しいかどうかを確認する『一個確認』を行っています。

第二工場では、製造管理者とリーダーが、本社では、製造管理者と検査課が確認しています。

昨年末のことですが、この一個確認の際に、部品の仕様違いがありました。

「誤って仕様違い品を量産してしまうことがないように」

ということが目的で行っているのですが、この『一個確認』により、目的は果たしているのですが、発生したことで、少々不安を感じてしまいました。

『傍観者効果』という言葉をお聞きになったことはないでしょうか？

「誰かがやってくれるだろう」といった心理のことです。

1964年にアメリカ ニューヨークで起きた『キティ・ジェノヴィーズ事件』は、女性が暴漢に襲われ亡くなった事件ですが、大勢の目撃者が居たにもかかわらず、女性が襲われている約30分の間、誰も救助も通報もしていません。

数年後、心理学者のラタネさんとダーリーさんが、この事件について

「大勢の目撃者が居たからこそ、誰も彼女を助けなかったのではないかと？」

という仮説のもと、学生を2名・3名・6名のグループを作って実験を行いました。

グループ討議の途中で、一人が発作を起こす演技をするという実験で、結果、2名のグループでは最終的に全員が行動を起こしましたが、6名のグループでは38%の人が行動を起こさなかったことが立証されています。

この実験の内容とは少し外れているかもしれませんが、工場でのお仕事でも、

『大勢でしている作業だから』

『誰かが確認しているはず』

といった心理が働くこともあるのではないのでしょうか。

「誰かがやってくれるだろう」と考えるとき、他の誰もがそう思っています。

毎日の作業においては、製品の外観の状態等々、注意深く確認してくださっていることと思えます。

自分が受け持っている部品が正しいものかどうか、といった方向からも、誰もが興味を持ちつつ作業をしていたら、気付きのチャンスが増え、更なる品質向上につながっていくと思います。

積雪時の通勤について

去年までの数年間は暖冬だったので、すっかり油断していましたが、今年はお正月早々の雪模様で始まり、寒さの大変厳しい冬となっています。

通勤時は、朝だけでなく、夕方の帰り道でも、路面の一部が凍結している日もあります。

1月には何度も雪が積もり、大雪警報の発令された日には、特に自動車通勤の方は、朝の通勤路がアイスバーン状になっていたため、怖い思いをしながら出勤された方も多いのではないのでしょうか。

仕事があると思うと、どうしても無理をしても出勤しようとしてしまいがちですが、路面凍結により、転んだり、事故に遭ったりしてケガをしては大変です。

気象条件によっては、車が立ち往生してしまう危険も生まれます。

朝起きて積雪に驚き、よく思ってしまうのが、

「近所の○○さんは出勤してはるのになんで思われるかも知れない……！」

といった不安です。

坂道とか、滑ってしまった時に、冷静に対処できるかどうか、感覚は人それぞれですので、他の人からどう思われるかよりも、まずは安全が優先です。

雪が溶けてから出勤する、溶けなかつたら出勤しないなど、決して無理はしないようにしましょう。

どうしても出勤する必要のある方は、スタッドレスタイヤの装着は冬の到来とともに必ず行い、自分の通勤路の危険箇所を前もって知っておく、何か起きた場合に備えて、余裕を持って早めに出る、といった、自助のための準備を万全にしておくようにしましょう。